

## 第5章

## 文体

**英**語学の世界に、〈旧情報〉〈新情報〉といった〈情報構造〉の概念が導入されるようになってから久しいが、この理論は英文法教育の発達においては大きな成果があったものと考えられる。従来の英文法は、形の分析に追われるばかりで、言語本来の〈情報を伝える〉という肝心の側面を見失っていたように思う。ところが、この〈情報構造〉の導入により、英文法が一段と身近なものへと進化した。

〈倒置構文〉の解説をひとつ取っても、従来は〈C+V+S〉だとか〈場所を表す語句+v+S〉などといった形をそのまま暗記するように教えていたが、〈情報構造〉の理論を取り入れることにより、なぜそういった語順になるのかということまで説明できるようになった。そのためには文脈が必要で、倒置している文を単独で分析していても無意味な話で、その前の文や内容がどうなっているのかをしっかりと見極めた上でなければ、倒置は説明できない。そのため、英文法書でも、従来のように倒置している部分だけを載せるのではなく、その前後の文まで示すようになってきた。これは大いなる進歩である。

ましてや英訳の場合、この知識は文体を考える上で不可欠である。語順にもある程度意味があるのだということを認識していなければ、自然な文は書けない。この章では、〈旧情報〉(相手が知っているようなこと)や〈新情報〉(相手が知らなそうなこと)という観点から英文法を見直し、英訳の際に使う可能性のあることだけに限定して、少しでも自然な英文が書けるようになるためのヒントを探っていきたいと思う。

## ● 文法運用力チェック ●

- 1. どのようなときに倒置構文を用いるのか? ⇨ §74
- 2. A book is on the desk. という文はなぜよくないか? ⇨ §75
- 3. turn off the tap と turn the tap off の語順では何が違うのか? ⇨ §78
- 4. pick up you と 言わないのはなぜか? ⇨ §78
- 5. give + 人 + 物 と give + 物 + to + 人の違いは何か? ⇨ §79
- 6. 受動態はどのようなときに用いるのか? ⇨ §81
- 7. 受動態の文で機械的に by 以下を付けてはいないだろうか? ⇨ §81
- 8. 無生物主語構文を乱用していないか? ⇨ §82
- 9. 抽象名詞を直訳していないか? ⇨ §83
- 10. 仮主語の構文で、it is の次を名詞にしていないか? ⇨ §84
- 11. 仮主語を受ける真主語を to 不定詞にするか that 節にするか、しっかりと判断しているか? ⇨ §84
- 12. 連鎖関係代名詞を英訳で使ったことがあるか? ⇨ §85
- 13. have to が「～しなければならない」という意味ではないときがあることを知っているか? ⇨ §86
- 14. 〈見せかけの have to〉を作文で使えるか? ⇨ §86
- 15. 二重否定を多用していないだろうか? ⇨ §88